

MIC Worship Service – 2022.10.09 (Missions Month)  
Title: “The Agony of Missionary Work”  
Text: Colossians 2:1~5, NIV

## 『宣教活動の苦悩』

聖書箇所:コロサイ人への手紙2章1~5節（新改訳）

*<sup>1</sup> I want you to know how hard I am contending for you and for those at Laodicea, and for all who have not met me personally.<sup>2</sup> My goal is that they may be encouraged in heart and united in love, so that they may have the full riches of complete understanding, in order that they may know the mystery of God, namely, Christ,<sup>3</sup> in whom are hidden all the treasures of wisdom and knowledge.<sup>4</sup> I tell you this so that no one may deceive you by fine-sounding arguments.<sup>5</sup> For though I am absent from you in body, I am present with you in spirit and delight to see how disciplined you are and how firm your faith in Christ is.*

1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。4 私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。5 私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいきます。

## Introduction

The Apostle Paul is an excellent example of a missionary. The Book of Acts tells us of his journeys and his experiences. Among other things, we know of course, that *missionary work is hard work*. It's agonizing. The Epistle to the Colossians adds more insights into his perspective about the ministry that God had assigned him to do.

使徒パウロは、宣教師として、とても優れた模範となる人物です。使徒行伝には、パウロの旅と、彼の宣教の経験が記されています。もちろん、私たちは、宣教師の仕事が大変な仕事であることは知っています。それは苦悩に満ちています。コロサイ人への手紙では、神がパウロに命じた伝道について、パウロがどのように考えていたのかを見てとることができます。

Paul's ministry serves as the topic of the paragraph – specifically, his struggle on behalf of the Colossian and Laodicean church. In the previous verse, **1:29**, Paul says that he **“strenuously contend”** (*agonizomenos*) and then repeats it in **2:1** by saying **“how hard I am contending”** (*agona*). Yes, you got it right. This is where we derive the English word for **agony**. In other words he was saying, *“I want you to know I am working very hard for you.”*

この箇所での主題は、パウロの伝道活動についてです。具体的には、コロサイとラオデキヤの教会のためにパウロが奮闘している様子が書かれています。前節、1章29節でパウロは、「激しく争う」という意味の『アゴニゾメノス』という言葉を用いています。2章1節では、「私がどんなに苦闘しているか」という意味の『アゴナ』という言葉を使い返しています。

もう、皆さんもお分かりだとは思いますが、これが英語の『agony/アゴニー』、『苦悩』という言葉の語源です。つまり、パウロはここで、『私が、あなたのために一生懸命働いていることをわかってほしい、知ってほしい。』と言っているのです。

Paul already told us in Colossians 1:28 that his goal is to **“present everyone fully mature in Christ.”** Therefore, he works very hard (he agonizes) to help them against a heresy called

Gnosticism. This teaching claimed that Christ was good but not all sufficient for salvation and heaven! It claimed that the believers had to obtain 'special knowledge' to know God, but Paul refutes that and he clearly sets forth what's at stake in this short passage we find at the beginning of chapter 2.

パウロはすでに、コロサイ人への手紙1章28節で、彼の目標は『すべての人を、キリストにある成人として立たせるため』だと語っています。ですから、パウロは、グノーシス主義という異端な考えを持つ人々に対して、彼らを助けるために、一生懸命に布教活動を行ったのです。すなわち、彼は苦悩したのです。このグノーシス主義という考えは、キリストは良い方だが、救いと天国を得るにはすべてが十分ではない、と主張していたのです。この教えは、神を知るためには信者が、「特別な知識」を得なければならないと主張していましたが、パウロはそれに反論し、2章の最初にあるこの短い箇所ですグノーシス主義に対し、何が問題なのかを明確に示したのです。ではこれから、パウロの苦悩を見ていきましょう。

### I. Agonize to protect the faith and to encourage the hearts of the saints (2:1~2a)

<sup>1</sup> I want you to know how hard **I am contending for you** and for those at Laodicea, and for all who have not met me personally.<sup>2a</sup> My goal is **that they may be encouraged in heart and united in love**...

まず、パウロは『信仰を守るため、聖徒の心を励ますために苦悩』しました。

#### I. 信仰を守るため、聖徒の心を励ますために苦悩した (2章1~2a節)

1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、

Paul was agonizing over the heresy that was being preached and taught in the two (2) cities of Colossae & Laodicea. Paul wanted to get there in person to speak the truth; to let them hear it from him. He felt a personal responsibility to counter this heresy head on and in person, but had not had the opportunity.

この異端とされる思想は、当時、コロサイとラオデキアの二つの都市で説かれ、教えられており、パウロは、このような思想を持つ人々に対して苦悩していました。パウロは、その異教が広がっている地域に行き、真理を語り、自分の口から直接、人々に教えを聞かせたいと考えていました。パウロは、異端な思想に対して真っ向から反対し、自分が直接的にこのような考えに対抗しなければならないと責任を感じていましたが、そのような機会には恵まれませんでした。

But Paul was not simply agonizing over something and doing nothing about it. He may be referring here to the spiritual work of **prayer** or perhaps the work of instructing them by means of his letter to them. Paul was fighting this heresy with his **pen**. He was writing to these churches and encouraging them and teaching them the way of Christ. He wanted to protect them and to keep them united in faith and heart.

しかし、パウロは、ただ悶々として何もしなかったわけではありません。ここでは、祈りという霊的な働きを用いたり、あるいは手紙を書いて、人々を指導するという働きをしたことが伝えられています。パウロはペン、すなわち筆を持って、この異端の思想と戦っていたのです。パウロはそれらの教会に手紙を書き、信者たちを励まし、キリストの道を教えていたのです。その地域の人々を守り、信仰と心の一致を保ちたかったのです。

It was this striving for the sake of the believers that compelled the heart of Paul. His heart that's filled with compassion for the lost and for the family of God.

パウロの心を駆り立てたのは、このような信者のための努力でした。パウロの心は、失われた人々や、神の家族のための憐れみで満たされていたのです。

**APPLICATION:** As believers this is what our hearts should show in our lives! We should have this same **agon**, this same struggle, this same striving for the lost souls of those around us!

Even for those we will never see, our prayer and striving should be for the advancement of the Gospel and the growth of the kingdom.

私たちも同様に、このような努力は、信者である私たちの人生においても示されるべきなのです。私たちは、周りの人々の失われた魂のために、パウロと同じ苦しみを味わい、パウロと同じように闘い、パウロと同じ努力をしなければなりません。たとえ、私たちが知らない人々、見たことのない人々のためであっても、私たちの祈りと努力は、福音を広げるため、また御国の成長のためになされるべきなのです。

Here's an idea: This can be realized in our lives today through our **giving** to the missions offerings. It can also be realized by our willingness to **go** on mission trips and share Christ with those we do not know... and may never see again! Whoever wants to serve Christ as He has called us to serve, we must first have a great **agony** for the lost of this world! We also need to encourage one another to build up our faith and be united in heart.

考えようによっては、福音を広げることは、宣教献金に寄付し、他の宣教師たちに伝道旅行に行ってもらうことによって実現することができるでしょう。または、私たちが自ら進んで伝道旅行に出向き、自分の知らない人たちや、二度と会うことのない人たちにキリストを伝えることによっても実現することができます。キリストが召されたように、キリストに仕えたいと思う人は誰でも、まずこの世の、失われた人たちのために大きな苦悩を持たなければなりません。そして、互いに励まし合って信仰を高め、心を一つにしていかなければならないのです。

## II. The agony of keeping Christ at the center of the gospel and in our fellowship (2:2b-3)

... <sup>2b</sup>so that they may have the full riches of complete understanding, in order that they may know the mystery of God, namely, **Christ**,<sup>3</sup> in whom are hidden all the treasures of wisdom and knowledge.

また、パウロは、『キリストを福音の中心に据え、キリストを中心とした交わりを保つために苦悩』しました。

### II. キリストを福音の中心に据え、キリストを中心とした交わりを保つために苦悩した(2:2b-3)

2それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。

3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。

As Christians, it is a given that the closer we draw to Christ the closer Christ draws to us. As a result, the more effective we are as witnesses for Christ and the bolder we become in sharing the love of Christ with the world around us...

クリスチャンとして、私たちがキリストを知れば知るほど、キリストも私たちを知ってくれるということは、当たり前のことです。その結果、私たちはより良いキリストの証人となることができ、キリストの愛を私たちの周りの世界に大いに伝えることができるようになるのです。

R. Kent Hughes (on our view of Christ): "...what you think about Christ, your conception of Him, is everything. If you believe in Jesus Christ, that He is eternal, without beginning or end, that He is always continuing; if you believe that He is Creator of everything, every cosmic speck across trillions of light-years of trackless space, the creator of textures and shapes and colors that daily dazzle our eyes; if you believe that He is the sustainer of all creation, the force which is presently holding the atoms of your body, your town, this universe together, and that without Him all would dissolve; if you believe that He is the mystery, the incarnate reconciler who will one day reconcile the universe and redeem humanity to Himself; if you believe He is the lover of your soul, who loves you with a love bounded only by His infinite nature; then despite the fact that life will be full of trouble, nothing much will go wrong. Your vision of Christ will quicken and shape your life. What you believe about Christ makes all the difference in the world NOW and eternity..."

米国のカレッジチャーチの元主任牧師である、R. ケント・ヒューズは、キリスト観について次のように述べています。

「キリストとは何かと言うと、キリストに対するあなたの観念のすべてが、キリストなのです。もしあなたがイエス・キリストを信じるなら、キリストは永遠であり、始まりも終わりもなく、キリストは常に存在するのです。もしあなたが、キリストがすべての創造主であり、何兆光年もの道なき宇宙に存在するあらゆる欠片や、私たちの目を日々幻惑する物の質感や形、色の創造主であると信じるなら、キリストはすべての創造物を維持する者となります。そして、もしあなたが、キリストは、あなたの体、あなたの町、この宇宙の原子を今支えている力であり、キリストなしでは、すべてがなくなってしまうと信じるのなら、キリストは、あなたが信じている通りの方なのです。もしあなたが、キリストは神秘であり、いつか宇宙と人類を、ご自分のもとに贖い出す和解者であると信じるのなら、キリストはそのような和解者なのです。もしあなたが、キリストはあなたの魂の恋人であり、キリストの持つ無限の性質によってあなたと愛で結ばれており、キリストがあなたを愛していると信じるなら、たとえ人生が問題だらけであったとしても、全て上手くいくでしょう。キリストについてのあなたのビジョンや考えは、あなたの人生を素早く形づくってくれることでしょう。なぜなら、『今のこの世界と永遠の世界』における違いは、全て、あなたがキリストを信じることによって生まれているからなのです。」

But how does the knowledge of Christ come through our fellowship to those around us? It flows with the love we have for one another. Like what Jesus taught in John 13:34~35:

ではしかし、一体、私たちとの交わりを通して、キリストへの知識は、どのように周囲の人々にもたらされるのでしょうか。それは、私たちが互いに抱いている愛によって、もたらされるのです。そのことを、イエス様がヨハネ書13章34~35節で次のように教えてくれています。

**<sup>34</sup> “A new command I give you: Love one another. As I have loved you, so you must love one another. <sup>35</sup> By this everyone will know that you are my disciples, if you love one another.”**

**34** あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。**35** もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

This is why Paul writes about the importance of love practically demonstrated in the church (see v.2). We know that people will *never* see Christ in our life until we learn to love them as Christ loved them!

だからこそ、パウロは、教会で実際に実践される愛の重要性について書いているのです(2節参照)。私たちは、キリストが人々を愛したように、私たちが他の人々を愛することを学ばない限り、人々が私たちの人生の中でキリストを見ることはないことを知っています。

Paul goes on to speak about **“the full riches of complete understanding”** (v.2b). **There** is no greater learning environment than an atmosphere of love and forgiveness...

パウロは続けて、「理解をもって豊かな全き確信に達する」(2節b)ことについて語っています。このように、愛と赦しに溢れていると言うことは、なんと素晴らしい理解や学びの環境なのでしょう。

The point for the believer to remember is that when we love God and cling to **Christ’s will and way**, we are going to love others into the family.

神を愛し、キリストの意志と道にしがみつけば、私たちは他の人々を家族の一員として愛するようになるのだと言うことが、信仰者が覚えておくべき教えなのです。

### **III. The agony of living faithfully as a church (2:4-5)**

**<sup>4</sup> I tell you this so that no one may deceive you by fine-sounding arguments. <sup>5</sup> For though I am absent from you in body, I am present with you in spirit and delight to see how disciplined you are and how firm your faith in Christ is.**

三つ目のパウロの苦悩は、『教会として忠実に生きることの苦悩』でした。

### **III. 教会として忠実に生きることの苦悩 (2章4-5節)**

4 私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。5 私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいきます。

Chapter 2:4 explains the intended or expected result of Paul's ministry of hard work for the church. Paul is working hard **“so that no one may deceive”** them **“by fine-sounding arguments”** (*pithanologia*). Paul is using his labor among them as a reason that they should not turn from what they have been taught.

2章4節では、パウロが教会のために懸命に働いていることと、その期待される結果を説明しています。パウロは、『まことしやかな議論によって』、『あなたがたをあやまちに導くことのないために』一生懸命働いているのです。パウロは、彼らに自分の宣教の働きを見せる事によって、人々に教えから離れてはならないと伝えていたのです。

The reason behind his concern for these churches is the simple fact that Paul did not want them to fall prey to this heresy that there was some special knowledge and that Christ was *not* enough for salvation!

パウロがこれらの教会を心配した理由は、『何か特別な知識を持たないと、キリストだけでは救われな  
ない』という、異端の思想の餌食になることを心配した、単純な理由でした。

For the new believer, these Gnostic-type teachers came across like someone who knew what they were talking about and they could persuade those who were new in the faith to follow their teaching.

信仰を始めたばかりの人たちにとって、グノーシス派の教師は、自分の言っていることをきちんと理解しているように見え、グノーシス派の教えに従うように説得することが上手でした。

And this is why Paul stresses the brotherly love to those who were new in the faith. This love would be a safe space and would help them to band together and stand against the heresy that was being taught!

そして、パウロが信仰を持ち始めたばかりの人たちに兄弟愛を強調したのは、異端の思想から人々を守るためだったのです。その愛が、安全な空間を作り出し、兄弟たちが団結することができ、教えられていた異端の思想に対して立ち向かえるようにしてくれたのです。

**ILLUSTRATION:** Have you ever heard the term *exvangelicals* or *exvies*? Wikipedia describes the term **Exvangelical** as *“a social movement of people who have left evangelicalism, especially white evangelical churches in the United States, for atheism, agnosticism, progressive Christianity, or any other religious belief or lack thereof. The hashtag #exvangelical was coined by Blake Chastain in 2016 to make “a safe space for people to find solidarity with others who have gone through similar experiences.”*

皆さんは、「エクスヴァンジェリカル」または「エクスヴィーズ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？ウィキペディアでは、「エクスヴァンジェリカル」という言葉を「無神論や不可知論や進歩的キリスト教、あるいはその他の宗教的信念を信じたり、または、信念が欠如してしまったために、福音派ではなくなってしまった人々のことを指し、教会、特にアメリカの白人系福音教会から離れてしまった人々の社会運動のことである」と説明しています。「ハッシュタグエクスヴァンジェリカル/#exvangelical」は、2016年にブレイク・チャステインが『同様の経験をした人たちと連帯するために安全な空間をつくる』ために生み出した造語です。

The Exvangelical movement is disseminated largely via podcasts. If some believer did not feel loved or did not believe that he or she fit in, the clever and persuasive arguments of false teachers would win them over because they had no one to help them refute the false doctrine being taught!

「エクスヴァンジェリカル」と言う脱福音主義運動は、主にポッドキャストを通して広められています。もしある信者が、愛されていると感じられなかったり、自分がクリスチャン社会に適合していると思えなくなったら、偽りの教師の、巧妙で説得力のある論法が彼らを勝利に導くのです！なぜなら彼らの周りには、偽りの教えに反論することを助けてくれる人が誰もいないからなのです。

This is something we must guard against in the church even today. We are called by God to love one another, not just for love's sake, but as a practical matter to keep all believers into the fellowship. To make all feel welcome and help them to see the difference between true and false teachings.

教会として忠実であると言うことは、今日でも、私たちが守らなければならない大切なことなのです。私たちは互いに愛し合うように神から召されていますが、それは単に愛のためだけではなく、実際問題として、すべての信者を交わりの中にとどめるためなのです。教会のすべての人が歓迎されていると感じ、真の教えと偽りの教えの違いを見分けることができるようになるために、「互いに愛し合う」ことは大切なのです。

When we do not take care of our own, Satan is there to scoop them up and deceive them with any wind of doctrine that could catch their eyes and ears! This is a sad commentary on the church today, but it is a fact and we need to get back to loving each other as Christ has commanded us to love... love like He loves us!

私たちが自分たちを大切にしていないと、サタンはそこにいて、私たちをすくい上げ、私たちの目や耳を捕らえるためにあらゆる教義を用いて、私たちを欺くことができます！これは、今日の教会に起こっている悲しい話ですが、事実なのです。キリストが私達に、「愛しなさい」と命じたように、私たちは、お互いを愛すると言う原点に戻る必要があるのです。

Paul's passion for Christ is evident in his agony for these two (2) churches that he hadn't met. I pray that our passion for Christ overflows the walls of this building and spills out into our community and souls are won to Christ!

パウロの、キリストに対する情熱は、この会ったこともない2つの教会に対する彼の苦悩に表れています。私たちのキリストへの情熱が、この教会の建物の壁から溢れ出し、地域社会に波及することを祈りましょう。そして、キリストが私たちの魂を勝ち取ることを祈りましょう。

### **Conclusion/Application**

What is your **passion/agony** for the lost like? What is your **agony** for your fellow believers like? Is it like that of the Apostle Paul? Christ calls us to love so that the world would know us by our love and would know the Source of our love!

あなたは、失われた人々に対して、どのような情熱や苦悩を持っているでしょうか？仲間の信者に対するあなたの苦悩はどのようなものですか？それは使徒パウロのようなものでしょうか？キリストが私たちに愛を求めておられるのは、私たちの愛によって、世が私たちを知り、私たちの愛の源が何であるかを知るようになるためなのです。